

# 正しく知ろう! 乳がん

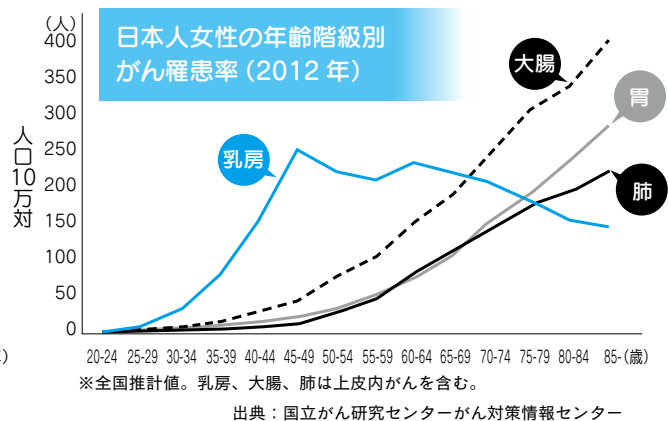
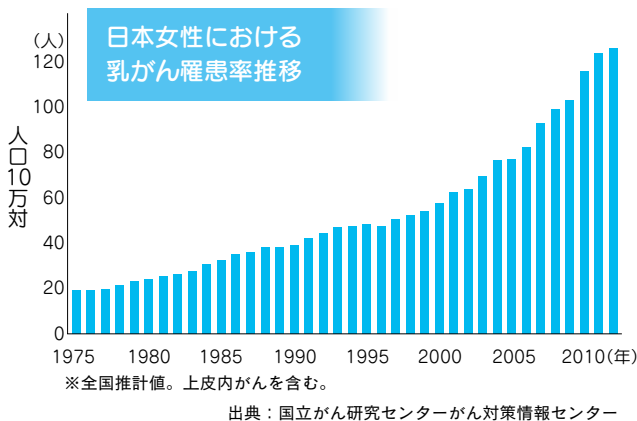
第1回

## 11人に1人がかかる乳がん

日本人女性が最もかかりやすいがんである“乳がん”。年々乳がんを患う方が増加し、今では11人に1人の日本人女性が、一生涯のうちに罹患する病気といわれています。年代別で見ると、乳がんの罹患率は30歳代から増加しはじめ、40歳代後半から50歳代前半にピークを迎えます。60歳代前半にも再びピークを迎え、その後は次第に減少していきます。胃がんや大腸がんなど年齢とともに罹患率が増加するがんとは違い、乳がんは若いうちから検診が必要な病気といえます。

著名人の乳がん公表により、最近では乳がんについ

て各種メディアで取り上げられるようになりました。ただし、報道されている情報は、すべて根拠のある正しいものとはいえ、視聴者・読者の不安をあおるものも多く見受けられます。このコラムを通じ、皆さんに乳がんについて正しく認識していただき、ご自身やご家族、ご友人が乳がんを患った時に、参考にしていただきたいと思います。第1回目は、私の自己紹介を兼ねて“乳がん看護認定看護師”の仕事について紹介します。



## “乳がん看護認定看護師”とは

私は現在、北里大学病院の乳腺外科で“乳がん看護認定看護師”として勤務しています。

皆さんは“認定看護師”についてご存じでしょうか。日本看護協会が認定する認定看護師とは、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた看護師をいいます。現在乳がんを含む21分野が、認定看護分野として特定されています。認定看護師になるためには、看護師として5年以上の実践経験を持ち、同協会が定める615時間以上の教育課程を終了した後に、認定審査に合格する必要があります。

近年乳がんの治療は選択肢が多様化し、治療期間も長期化しています。患者さんは治療の選択に悩み、再発・転移への不安を抱えながら長い治療に立ち向かわ

なければなりません。また、乳房を失うという精神的なダメージからなかなか立ち直れなかったり、治療のために妊娠の計画を変更せざるを得ない場合もあります。私たち乳がん看護認定看護師は、このような問題を抱えた患者さんやご家族に、がん告知後の心理的サポートから治療方法を決定するための情報提供、治療の副作用に対する専門的ケア、ボディイメージの変化に対する支援など、幅広い役割を担っています。本年7月現在、316名の乳がん看護認定看護師が、全国で働いています。

次回は、乳がんはどのような病気なのかを具体的に紹介していきます。

※10月8日に当組合ホームページに掲載予定

### ●参考・引用文献

国立がん研究センター「がん情報サービス」  
日本看護協会「資格認定制度について」

### 著者プロフィール

瀬戸 牧子 (せと まきこ)  
北里大学病院看護部  
乳がん看護認定看護師  
リンパ浮腫指導技能者

